

## 第29回全日本フルコンタクト・テコンドー選手権大会 入賞者紹介と感想（期日通りメールした選手のみ）

開催日 2018年11月24日（土） 開催地 後楽園ホール 午後5時～9時

### 1，最優秀選手賞（史上初の3年連続受賞）

福島良菜（福岡筑紫野跆拳道クラブ） 二段 16歳 福岡県筑紫野市出身

成績 A級蹴武型 優勝（3連覇） 団体型優勝（3連覇） 女子無差別級組手2位



（A級型）

3連覇できて嬉しいです。決勝では、去年より緊張せずに、練習通りの型ができたので良かったです。どの型が出ても、自信を持ってできるように練習に励みます。

（女子組手）

決勝まで行けて、憧れていた選手みんなと対戦できたのがとても嬉しかったです。もっといい動きができるように、しっかり反省して次に生かしたいです。

（団体型）

福岡筑紫野で3連覇できて嬉しいです。練習通りの安定した型ができたので良かったです。来年は同じメンバーで出場できるかわかりませんが、クラブで4連覇目指して頑張ります。

## 2, A級男子無差別級組手

### フルコンタクト・テコンドー王者

優勝 八幡直明 (東京中野跆拳道クラブ) 初段 30歳

神奈川県横浜市出身



なんとか優勝はできましたが、目標としていた自分がやりたい組手は今一つでしませんでした。  
来年はもっと華麗に、もっと圧倒的に勝てるように頑張っていきます。  
応援してくださった皆さん、ありがとうございました！

2位 倉田剛志 (千葉柏跆拳道クラブ) 二段 39歳

北海道函館市出身



今年は30代最後のA級挑戦となり、現役選手として一つの節目のつもりで稽古を重ねてきました。  
その過程で多くの方から励ましやアドバイスを頂けたのが本当に嬉しく、最後まで戦い抜く原動力になりました。  
優勝という結果に届かなかったことは悔しいですが、支えてくださった方に少しでもお返しできるような試合ができていたら嬉しいです。  
もう少しだけA級への出場資格も頂けそうなので、また来年に向けて地道に稽古を続けていきたいと思います。  
応援ありがとうございました。

3 位 寺田皓成 (神奈川県横浜校体育会跆拳道部) 初段 22 歳 静岡県静岡市出身



### 3, A級蹴武型 (男女混合試合)

優勝 福島良菜 (福岡筑紫野跆拳道クラブ) 二段 16 歳 最上段参照

2 位 森 慎治 (福岡筑紫野跆拳道クラブ) 初段 15 歳 福岡県筑紫野市出身



次こそは、優勝したいです。

3位 西谷信一郎 (東京大森跆拳道クラブ) 三段 44歳 北海道小樽市出身



2018年で、一度も自爆ミスが無かったのに一番の大舞台でやってしまいました。なぜやってしまったかは恥ずかしいのですが分かりません。ただ、私はミスをして相手は集中していました。三位は頂けましたが、まだまだ足りませんでした。すぐに来期に向けて行動します。

素晴らしい大会を運営して下さった実行委員の皆さん、本当にありがとうございました

## 4, 女子無差別級組手

優勝 前根奏子 (横浜鶴見跆拳道クラブ) 二段 24歳 神奈川県相模原市出身



型と組手の2種目出場で体力が持つか不安ではありましたが、何とか組手だけでも2連覇という結果を残すことができ嬉しかったです。型はまだまだ研究と、練習が必要だと感じました。全日本で通用する型になるよう、精進します。皆様、今年もたくさんの応援とサポートをありがとうございました。

2位 福島良菜 (福岡筑紫野跆拳道クラブ) 二段 16歳 最上段参照

3位 市坪 愛 (東京江東跆拳道クラブ) 初段 27歳 島根県松江市出身



練習してきたことが出し切れずに悔しさの残る大会となりました。  
来年は周囲の皆様の期待を越える試合が出来るよう、しっかりと精進して参ります。  
いつもお声掛けいただいたり、応援してくださる皆様、本当にありがとうございます。  
また来年に向けて、どうぞよろしくお願いいたします。

## 5, 団体戦蹴武型

優勝 福岡筑紫野跆拳道クラブ

福島良菜 最上段参照

森慎治 A級蹴武型欄参照

斉藤未有 B級蹴武型欄参照



## 2位 岡山大学体育会テコンドー部

中島 光  
野村紅梨子  
中濱祐美

初段 20歳 三重県桑名市出身

B級蹴武型2位欄参照

初段 20歳 岡山県岡山市出身



忙しい中授業の合間や休日なども使って練習したり、大会での結果を受け改善を重ねた成果が出て、入賞することができたのでとても嬉しいです。

## 6, B級男子無差別級組手

優勝 佐藤秀是 (神奈川大学横浜校体育会跆拳道部) 初段 22歳 神奈川県藤沢市出身



2 位 片川拓真 (横浜市立大学校体育会跆拳道部) 初段 20 歳 静岡県藤枝市出身



3 位 井野敦哉 (横浜白楽跆拳道クラブ) 初段 21 歳 静岡県浜松市出身



## 7, B級蹴武型（男女混合試合）

優勝 相良典隆（鹿児島曾於跆拳道クラブ） 初段 42歳 鹿児島県鹿児島市出身



まずはこのような機会を与えてくださった宗師範、大会運営に携わった先生方、対戦した選手の皆さんに心から感謝申し上げます。自分一人の力でここに立っているのではないということを改めて感じています。練習に付き合ってくれる梅北クラブ長、いつもアドバイスをくださる九州の先生方、大会で励ましてくださる西谷さんや河野さん、本当にありがとうございます。毎回笑顔で送り出してくれる妻と子供たち、今年もがっかりさせることが多かったのですが...最後によりよく良い報告ができました。いつもありがとう。元気と勇気をもらっています。ただただ、全てに感謝です。...坊さんみたいなコメントだな(笑えない)。

2位 野村紅梨子（岡山大学校体育会跆拳道部） 初段 21歳 京都府京都市出身



入賞することができて嬉しいです。あまり緊張しすぎず、普段通りの型をすることができたと思うので良かったです。

3 位 齊藤未有 (福岡筑紫野跆拳道クラブ) 初段 17 歳 福岡県筑紫野市出身



今回、三位になってとても嬉しかったですが、自分が満足できる型が出来なかったのが悔しかったです。次の大会に向けて、また努力したいです。

## 8、壮年部（40～50歳）組手無差別級

優勝 河田哲雄 (横浜鶴見跆拳道クラブ) 初段 42 歳 ブラック出身



全日本で優勝出来た事を本当に嬉しく思います。  
昨年の小川選手の組手に刺激を受け、自分もと決心をしてから練習に励んできました。  
予選会で対戦することが出来たのですが正直何もできなく負けてしまいましたが本戦でリベンジが出来たので1勝1負。  
私は壮年部では新人になるのでアドバンテージは私にあったと考えています。  
来年はもっと厳しくなると考えられるので耐えられるよう来年にむけて努力をしていきたいと思っています。  
応援してくださった皆様に感謝します。ありがとうございました。

## 2位 渡邊健人 (名古屋天白跆拳道クラブ) 初段 44歳 愛知県豊田市出身



沢山の課題とまたひとつ高い壁が見つかった大会でした。  
自分のやりたい組手が押し通せる様になる為にまた一年精進して後樂園ホールに帰ってきます！

## 9、高校生組手無差別級

### 優勝・2連覇 安岡洸佑 (高知安芸跆拳道クラブ) 初段 17歳 高知県安芸市出身



全日本大会に4回出していただき、3回優勝することができました。6年間指導していただいた朝比奈先生  
感謝しています。河総師範、各地域の先生方、岡山大学の先輩たちにあたたかく見守ってもらい感謝しています。  
来年4月からは社会人になります。テコンドーをつづけて行けるかわかりませんが、この6年間で学んだことを  
活かしがんばっていきます。本当にありがとうございました。

2 位 寺川 洸大 (長崎佐々跆拳道クラブ) 初段 1 6 歳 長崎県北松浦郡佐々町出身



痛みと闘いながらの試合でしたが自分らしく試合ができたと思います。  
これからも練習を積むことでまた次の目標に向けて頑張りたいと思います。

## 9、中学生組手無差別級

優勝 鎌田 健矢 (湘南平塚跆拳道倶楽部) 初段 1 5 歳 神奈川県平塚市出身



僕は 10 年間のテコンドー人生の夢を勝ち取りました！  
この先もっともっと絶対に強くなります！

## 2位 木下颯太 (湘南平塚跆拳道倶楽部) 初段 14歳 神奈川県平塚市出身々町出身



今回の全日本大会は、初戦から去年の中学生チャンピオンの森くんとの対戦で、とても緊張していて、まさか勝てると思っていたなくて、でも、今までの練習の成果が発揮できて、それが結果につながって良かったです!!今回は準優勝だったけど、来年は優勝を目指して頑張ります!

## 3位 武田龍倭 (東京城南雑色跆拳道クラブ) 初段 13歳 東京都大田区出身



## 1 0、少女部組手無差別級

優勝・2連覇 寺川 葵 (長崎佐々跆拳道クラブ) 初段 14歳 長崎県北松浦郡佐々町出身



2連覇ができほっとしました。緊張からか体が思うように動けなかったけれど勝つことができ良かったです。  
これからの練習もしっかりやっていきたいです

## 1 1、小学生組手無差別級

優勝 高橋英秀 (川崎跆拳道クラブ) 初段 13歳 神奈川県川崎市出身



組手は先週の練習の時に足にケガをしてしまい、動きが心配で大会の日の朝に1時間ちょっと練習をしました。今年は練習も一週間に1度しかできなかった分、関西大会で、かいと君に負け、あいりちゃんには1度勝ったあとはずっと負けていたので、自分の家で練習をしてきたので、小学生最後の全日本大会で勝ててよかったです。

## 1 2、少年少女部型

優勝 高橋英秀 (川崎跆拳道クラブ) 上記参照

型は足のケガが完全に治っていなかったもので、ケガをしている足が軸足になる時の蹴りに気を取られて思いきった型ができなくて心配でした。でも去年の悔しさを取り返せることができてよかったです。一週間に1度の練習の日のほかに、自分の家での練習を続けてきてよかったです。小学生最後の全日本大会で優勝できてうれしいです。

2 位 三根昂琉 (長崎佐世保跆拳道クラブ) 初段 14歳 長崎県佐世保市出身

